

平成23年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立なでしこ小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区平均正答率に比べ、かん字をよむ・かく、物語や説明文を読み取るについては1～4ポイント上回っているものの、話を聞きとる、「は」「を」「へ」の使い方、文章を書くについては、1～2ポイント下回った。漢字を読むについては、100%の正答率であった。	「読む能力」は、区平均を3%、「言語」は1%上回ったが、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く」については、それぞれ1ポイント強下回った。	読むことや言語については、概ね理解できていると言えるが、聞く・話す、文章を書くについては、より細かな指導を要する。助詞の使い方も含め、より正確に書く、伝えることの積み重ねをしていく必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「長さくらべ」で0、3ポイント「数の大きさくらべ」で1ポイント「かたち」で2ポイント下回った以外は、すべての項目で、1～2.5ポイント区平均を上回っている。平均しての理解力を示している。	すべての項目において、区平均を上回った。特に数学的な考え方については、区平均を4ポイント上回った。	平均正答率が92.7%とかなりの高い値を示した。各項目とも平均して高い値を示している。基礎的な理解はできていると考えられるので、さらに力を積み上げていけるように基礎基本をしっかり押さえながら指導していく。

平成23年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
期待正答率との比較では、いずれの内容でも上回っている区平均正答率と比較すると、「聞き取り」「漢字を読む・書くこと」「物語・説明文の読み取り」については上回り、作文については0.4ポイント下回った。	「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」とも、期待正答率、区平均正答率よりも上回っている。前年度の校内平均正答率との比較では、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」が下回っていた。	いずれの内容においても、正答率の高さから基礎は身に付いていると思うが、実際の生活場面で活用する力(自分の考えを書く、作文で漢字を適切に使うなど)が十分に身に付いていない。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての項目(1000までの数、たし算・ひき算、かけ算の問題、かけ算九九、時刻と時間、長さ・かさ、いろいろな形、はこの形)とも期待正答率と区平均正答率を上回ったが、かけ算の問題の正答率は66.3%にとどまった。	「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」とも、期待正答率を約10ポイント上回った。表現・処理の正答率が最も高く88.1%だった。	「かけ算の問題」「長さ・かさ」「はこの形」を除き、およそどの内容についても基礎が身に付いていると考えられる。ただし、活用する力は69.2%と低く身に付いていないと思う

平成23年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
日常的に国語への関心は高く、話を聞くこと、自分の考えを伝えることなどを好む。今回の結果からも、漢字の読み、物語の内容の読み取りなどに、正答率が期待値、区平均値より高くでている。言葉の学習では、イメージで内容を捕らえているので、語彙そのものの捕らえ方が浅い点がある	話すこと、聞くこと、読むことは、期待値よりも高い。特に、読むことは、区平均よりも良い。やはり、読み物の関心が強く、力もついてきている。言語事項で期待値よりやや下がっているが、区平均よりは高い。	関心は高く、説明文での読み取りは、高くなっている。言語については、細かく正確な理解に力を入れていく必要がある。また、話す、聞く力については、得意な者とそうでない者との二極化が出始めている。発言の機会を多くの子どもたちにつくり、互いの考えを受け止めさせていく。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
関心は高い。その中でも地域の商店街や職業への関心が特に高い。地図から学校の周りや地域の様子を掴むことは平均的な数値である。生産や販売に携わる人についての項目では、災害への取り組みなどについての数値が高い。	社会的事象での関心が高い。日常からニュース等への話題に興味をもっていることが生きていると考えられる。授業内容は、しっかり理解して、知識としている。資料の活用でもう少しのところがある。	関心では、より多くのこと、現状のことより広くのことなどの意欲が出てきている。授業時に、地図や資料等のデータを活用して進めていくことで、資料活用の力もつけていく。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
昨年度と比較すると、全項目で数値が上がり、一年間の学習の成果がでている。数量についての基礎的な力はついてきて、正答率は、区平均値より良い。また、活用でも成果がでてきている。	関心、考え方、表現処理、知識ともに区平均や、期待正答率よりも高い。昨年度の取り組みが効をなしている。この力の定着を図っていく。	多岐にわたり、昨年度より良い成果が出ている。しかし、図形に関しての数値は、やや下がる。授業時から作図への苦戦、図を分析して解く問いへの弱さを感じている。図形への取り組みを強めていく。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎的な問題の正答率は高い。理科は、好きな児童も多く、関心があるのだろう。活用での数値がやや低いので知識として知り得たことを活用していけるよう、また、発想などにも生かしていけるようにしたい。	関心、考え、技能表現、知識理解ともに区平均や、期待正答率より高いので、学習内容は定着している。特に、自然事象についての知識、理解は高い。ただし、関心意欲の項目は、他3教科に比較すると低いので、理科を好きでない者も多いようである。	ほとんどの項目で、期待値や平均値より高い。学習した内容が、しっかり定着しているようである。理科への関心をもたせていけるように、日常的な関わり方を考えていくようにする。

平成23年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「話し合いの内容を聞き取る」、「漢字を読む」の項目については、区の平均を大きく下回った。区平均を上回っている項目もあるが、全体的に区の平均を下回っている。特に、聞くことについては正答率が極端に低い児童が多い。また、作文も個人差が大きい。	いずれの観点も、区の平均との有意差は見られない。「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」については平均的にできているが、「国語への関心・意欲・態度」及び「書く能力」は、個人差が大きい。	「話す聞く能力」の正答率は、「話し合いの内容を聞き取る」項目だけでなく、「説明文の内容を読み取る」などの「読む能力」の正答率とも比例する傾向がある。また、「書く能力」は、「漢字を書く」問題の正答率の低さとも連動している。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「くらしをささえる水」、「伝統工業」の項目については、区の平均を上回っている。その他の項目は、ほぼ区の平均と同じである。「地形図の見方」については、約3割の正答率が50%以下である。また、区の平均を上回っている項目でも、個人差が大きい。	いずれの観点も、区の平均との有意差は見られない。「社会的事象についての知識・理解」は、全体的には正答率が高いが、極端に低い児童が見られる。「観察・資料活用の技能・表現」については、特に個人差が大きい。	「社会的な思考・判断」の正答率が低いと、問題の内容別正答率も全体的に低くなる傾向が見られる。「観察・資料活用の技能・表現」については、索引を利用すること、方位、標高を断面図に表すことなどの正答率が特に低い。資料を元に思考する力をつけることが課題である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「億と兆」、「小数」、「分数」、「面積」については、区の平均を上回っている。「角の大きさ」が4ポイント区の平均を下回っているが、概ね正答率は安定している。算数も個人差が大きく、特定の項目が苦手というより、いずれの項目も正答率が低いという児童が複数いる。	「算数への関心・意欲・態度」の項目は区の平均を下回ったが、それ以外の項目は平均とほぼ同じか上回っている。「数学的な考え方」については、正答率が50%前後の児童が3割程度いる。「数量や図形についての知識・理解」は、大部分の児童が区平均を上回った。	「数量や図形についての表現・処理」については区の平均を上回っているが、内容に目を向けると、除法の正答率が整数でも小数でも低くなっている。計算ができて文章題となると正答率が低くなる児童については、国語の「読む能力」についても課題があると考えられる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「電気のはたらき」、「月と星」、「もののかさと力」、「水のすがたとゆくえ」の項目については、区の平均を上回っている。特に「もののあたたまりかた」は、区平均を7ポイント上回った。一方、「1年間の植物の成長」、「天気の様子と気温」については、区の平均を3ポイント以上、下回った。	「自然事象への関心・意欲・態度」が70%未満の児童が半数を超えている。「科学的な思考」については正答率が安定しているが、「観察・実験の技能・表現」の項目は個人差が大きく、正答率が50%を下回る児童が2割程度いる。	「1年間の植物の成長」、「天気の様子と気温」、「動物のからだのつくりと運動」のように、実験ではなく観察をして学習する項目の正答率が低い傾向にある。知識・理解力と思考力が高いと、内容別正答率も全般的に高くなっている。

平成23年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「言語の学習」以外は期待正答率を上回っている。「物語の内容を読み取る」については期待正答率と同程度ではあるが、心情や場面の描写など、叙述を味わいながら読み自分の言葉でまとめる力が不十分であった。「作文」は、14ポイント上回った。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」いずれも期待正答率を上回っている。「言語事項」については、期待正答率を上回っているが、第5学年の漢字、接続語の理解、文脈に沿った漢字の適用については課題がある。	「目的に応じて文章の内容を的確に読み取る力」と「文脈に沿って漢字を適切に使う力」に関して課題がある。事象と感想、意見を分けて捉え、文章全体の主題を読み取る力をつけるためには、日頃から読書経験を積み重ね、言語事項に関して繰り返し理解させていく必要がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「日本の水産業」「日本の貿易」に関する内容において期待正答率を下回っている。地図上の海流の位置と名称への理解や複数の資料と関連づけて事象の因果関係を判断する力が不十分である。「私たちの国土と気候」は9ポイント上回った。	各観点ともに期待正答率を上回っており、良好な状況と捉えられる。設問別に見ると、資料から読み取る力が不十分である。	おおむね良好な状況と捉えられる。海流の名前、空港の特徴、工業地帯の名前などの理解が不足している。また、課題に対して資料から変化を読み取る力が不十分である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「分数」「体積」「単位量あたりの大きさ」が期待正答率を下回っている。「合同と立体」については、正答率を17ポイント上回っている。	「数と計算」がやや期待正答率を下回った。分数計算において、通分、約分の理解が不十分であった。わり算では逆数を用いて計算することや、約分の理解を確実にさせたい。	最大公約数についての理解を確実にさせ、通分、約分の理解を確実にすると共に、線分図を利用して分数の計算を確実に把握させる必要がある。単位量あたりの大きさは、数直線を利用することで理解をさせていく必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「植物の受粉」「顕微鏡の使い方」は期待正答率を上回った。その他の内容においては、期待正答率を下回った。	4観点ともに期待正答率を2～4ポイント下回っている。	「雲の動き」から天気を予測すること、ふりこの長さとおもりのおもさとの関係についての理解が不十分であった。顕微鏡の操作については、実験を通して再度確認させる必要がある。植物の受粉、生命の誕生についても理解が不十分である。